

ある歴史学者は次の様に言いました。

「人類史上で最も大きな事件を 3 つ述べるとしたら、それは何か？」

- 1 番目に、神が人間としてこの世に来られたこと、すなわちイエス・キリストの誕生です。
- 2 番目は、その神が死なれたということ、これは人の死ではなく神の死です。
- 3 番目は、その神が生き返られたということです。」

彼は、イエスの誕生「クリスマス」と

イエスの死「十字架」と

イエスの復活「イースター」を、人類史上最大の事件だと語ったのでした。

今日は、人類史上最大の出来事の中の「イエスの誕生」、クリスマスの出来事から学びましょう。

—— バプテスマヨハネの誕生 ——

(1 : 5～23 節)

この箇所は、イエス様の先駆けとなられた、バプテスマのヨハネが、神様の超自然的なみ業（奇跡）によって誕生した出来事が書かれています。その出来事は、長い間ザカリヤ夫妻の祈り続けてきた、祈りに対しての神様からの答えでもありました。

「ザカリヤ夫妻の祈りとは、どのような祈りであったのでしょうか。単に子供が欲しいというような祈りではありません。イスラエルの信仰復興の祈りでした。」

ザカリヤは祭司でした。実はその祭司職は世襲性ですから、子供がいなければ家業は彼らの代で絶えてしまいます。さて、妻のエリザベツですが、彼女もアロンの子孫ですので、まさにこの 2 人はエリート夫妻です、祭司の中でも名門中の名門でした。ですからこの 2 人にとって、自分たちの代で家業が耐える事は大変不名誉なことなのでした。

5～7 節、さてここに、神の前に忠実に仕えている祭司ザカリヤとその妻エリザベツが登場します。6 節「二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を、落ち度なく行っていた。」まさにその様な人でした。ところが、神の前に正しい行いをして来たのに、なぜか今まで報われない毎日を送っていました。その理由（わけ）ですが、7 節「・・彼らには子がいなかった。エリザベツが不妊だったからである。また、二人ともすでに年をとっていた。」と書かれている通りです。

当時の旧約聖書の価値観で考えると、神の前に正しい人とか、神から祝福を受ける人とは、今の時代では当てはまらないと思いますが、例えば、子供が多く生まれるとか、長寿であるとか、事業が繁栄するとか・・・そういう人でした。ところが、この夫婦には子供が与えられなかったのです。しかも、もう年寄りになってしまっていました。常識的にはこれからも与えられることもないでしょう。

私たちの人生にもこういうことが良くありますね。あの方はあんなに熱心に主に仕えているのに、家族が教会に来ないとか、あんなに祈って努力したのに試験に合格しなかったとか、なかなか病気が治らないとか、あんなにひどいケガをしてしまったとか・・・。神様

って一体なにをしているんだらう。神様がわからなくなってしまうことがあります。

あの、三浦綾子さんはよく「先生は素晴らしい信仰をお持ちなのに、なぜご自分の病気を治せないのですか？」聞かれたそうです。

今、ザカリヤ夫妻もそうであったかもしれません。

----- くじに当たったザカリヤ -----

ところが、神様はよく人を見ておられるのですね。神様は神を信じて、ひたすらに祈っている者に恥をかかせる事はなさいません。

さて、そのザカリヤが、彼の番になったので、神殿に入って香を焚くことになりました。くじに当たったのです。実はこうなる事は祭司にとって最高にうれしいこと、光栄なことでした。この様な経験をする事は祭司にとって一生の願いでした。人生の中で、一度あるかないか、そんなはえある努めに彼は預かることになったのです。[ですから一度、この努めに預かった祭司は、次のくじからは除外されました。]

----- 祈りがかなえられたザカリヤ -----

さて、一生に一度あるかないかのはえあるお勤めを果たすために、ザカリヤが神殿に入り香をたいていた時のことでした。なんと、み使いガブリエルが彼の前に現れました。それもあまりにも唐突にです。今、神はみ使いをザカリヤの所に送られたのです。

11 節、「すると、主の使いが現れて、香の祭壇の右に立った。」この様に、彼の祈りに応えて、神の方から、ザカリヤの人生に今、介入されて来ました。でもそれは、あまりにも突然で、唐突にでした。ですから、彼は本当にびっくりしました。

12 節、「これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。」そして、御使いガブリエルはザカリヤに次の様に神からのメッセージを伝えました。

(13～17 節) その第一声は、13 節「恐れる事はありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです・・・」

----- 不信仰なザカリヤ -----

すごい事が起こりました。それは今までの長い長いザカリヤ夫妻の祈りに、神はあまりにも素晴らしすぎる形で応えられたのです。ところがそれが余りにも素晴らし過ぎたので、返ってザカリヤはその事実を受け入れる事が出来ませんでした、理解することが出来ませんでした。そして、ついみ使いに言ってはならない事を口走ってしまいました。

18 節。「私はそのようなことを、何によって知ることができるでしょうか (何か根拠があるのですか?)。この私は年寄りですし、妻ももう年をとっています。」

本当に残念ですね。今、ザカリヤは神の現実ではなく、自分の現実を見えています。不信仰になってしまっています。今まで彼はあんなに子供が与えられる事を強く求めて祈って来たはずなのに今、神様からの確かなお言葉をいただいた時、それが現実になった時、そこに神様の業を信じない自分がいたのです。彼は民を代表する祭司であったのに神の言葉が信じられなかったのです。実は、ここに当時のイスラエルの人々の信仰の一面が見えて来てしまうのでした。実はイスラエルの人々の信仰も同じだったのです。

——— 祈りに応えて下さる神さま ———

さて、ザカリヤという名前は「主は覚えておられる」という意味です。そして、神は二人の思いを越えて、二人の祈りを越えて、イスラエルの民にヨハネ（主は恵み）という子供を、与えようとされています。昔も今も、神は神を信じる者の思いをはるかに越えて、祈りに応えてくださる神様なのです。

----- 不信仰を克服したザカリヤ -----

それにしても不信仰になってしまったザカリヤは、ものが言えなくなっていました。でも神は心やさしい方ですね。その後でものすごい主の業がなされました。

あの、イエス様の母になるマリアにも天使ガブリエルが現れて、「救い主の母になる」ことを伝えます。この告知を信仰をもってマリアは受けとめます。そんな、マリアの信仰をザカリヤの妻エリザベスは、3ヶ月間もマリアと共に、2人で共に生活する中で自分のものにしました。

その奥さんの影響によってでしょうか、今度はザカリヤも、ヨハネの父親となるにふさわしい信仰をいただきました。（1章57～63節、読む）。

確かにザカリヤは、神から選ばれた人でした。信仰の人でした。神様はザカリヤへのお取り扱いからもわかる様に、神様は人を成長させてくださるお方なのですね。私たちが成長させるのは神なのです。ですから私たち失敗を繰り返しながらでも、成長させていただきましょう。

今年のクリスマス。私たちも、1章64節の信仰に立たせていただきましょう。

64節「すると、ただちにザカリヤの口が開かれ、舌が解かれ、ものが言えるようになって神をはめたたえた。」

その同じ舌で 私たちもキリストを伝えましょう

語りましょう

讃えましょう。

ザカリヤと妻エリサベスは素晴らしいクリスマスの備えをしたのです。

私たちも良き備えをして、今年のクリスマス迎えましょう。